

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2008 vol.17

クリスマスコンサート開催



～Saveur du poussin (ひよこ風味) から歌声・演奏のプレゼント～



大阪音大卒業生



♪ 岡本 純 子さん (ソプラノ)
♪ 浅田 裕有子さん (ソプラノ)
♪ 木村 奈 々さん (ソプラノ)
♪ 池田 奈 月さん (クラリネット)
♪ 曾我 けいこさん (ピアノ)



昨年12月19日、今回で第5回目となる恒例のクリスマスコンサートが病院1階玄関ロビーで開催されました。今年は大阪音大の卒業生である岡本純子さん(ソプラノ)浅田裕有子さん(ソプラノ)木村奈々さん(ソプラノ)池田奈月さん(クラリネット)曾我けいこさん(ピアノ)のメンバーで構成されるSaveur du poussin(ひよこ風味)というなんともかわいらしい名前のグループによる演奏でした。

少し肌寒さを感じる季節ではありますが、きれいに飾り付けされたクリスマスツリーのもと大勢の方が集まりコンサートが開始されました。最初の曲は『クリスマスメドレー』で始まりクリスマスムードを盛り上げたあとは『鳥歌』『はな』など心暖まる沖縄音楽や『アヴェ・マリア』『結婚の祝福』などの聖歌や、また『川の流れるように』『見上げてごらん』など、大勢の方が楽しめるような構成でした。



彼女らの演奏と綺麗な歌声が響き渡ると、お見舞いに来ていた患者さまの家族や、職員なども立ち止まり、引き込まれるように聴き入っていました。患者さまにとっても、同様の様子で楽しんでおられ、目を閉じて口ずさんだりリズムをとったりする方も見受けられました。

最後の『ふるさと四季メドレー』が終わると盛大な拍手があり、あっという間の1時間でした。彼女らの生演奏は、患者さまにとっても、職員にとっても心を癒す良いクリスマスプレゼントになったように思います。忙しい中、演奏しに来て下さったSaveur du poussinのみなさん本当にありがとうございました。



荒木麻酔科部長

診療科 クローズアップ VOL.15

『24時間いつでも・どんなに緊急でも・
どんなに重症でも、患者さまに安全な麻酔を』

麻酔科部長 荒木 淳一

麻酔科

手術を受ける予定になっている患者さまに、【全身麻酔】の説明をさせていただくのも我々の仕事のひとつです。

多くの患者さまから質問されるのは、「一度うった麻酔は、どれくらいで覚めるのですか?」です。答えは、いつでも麻酔をやめることはできるし、いつまでも麻酔を続けておくこともできる、です。

手術中、麻酔の薬はずっと注射し続けています。麻酔医は、手術の途中で患者さまの目が覚めたり痛みを感じたりしないように、注射の量を調節しています。

麻酔中は人工呼吸をする必要があります。その人工呼吸を管理するのも仕事です。心臓の働きが弱くなつて命が危なくなつた時は、量を調節しながら強心剤を注射します。手術中、血圧が高くなりすぎたり低くなりすぎないように調節もします。

また、大量に出血した時の輸血も行います。手術中の患者さまが無事に手術を乗り切れるように、絶えず患者さまの枕元にて、心電図・血圧・脳波・点滴・麻酔器・呼吸・血液データ・その他を監視し管理しているのが、我々麻酔医です。

当院の予定手術および緊急手術の麻酔はすべて我々が



麻酔科スタッフ



築地副部長



大川副部長



溝上医師



池村医師



小幡医師

行っています。さらに、併設の兵庫県災害医療センターに搬送されて来られた重症の患者さま（さまざまな事故、心筋梗塞、脳出血など）の麻酔も担当しています。我々には、昼も夜もありません。平日も休日もあります。できる限り働いて、いつでもどんな手術でも麻酔を行うようにしています。しかし、麻酔スタッフの人数を確保することが難しく、まだまだ十分な麻酔サービスを提供することができているとは思っていません。「24時間いつでも・どんなに緊急でも・どんなに重症でも、患者さまに安全な麻酔を」提供できるよう、今後とも努力してまいります。

平成19年度 施設利用訓練に参加して



践に近い形で訓練を行なえたことは有意義でした。今後の課題も多く出され、解決しなければならぬことが山積みであると実感しました。何より2つの病院が同じ目的で協力できる体制作りが最重要と痛感しました。

2月16日、大規模災害を想定し兵庫県災害医療センターと支部及び赤十字病院が一体的な運用を図ることにより救護体制の充実・強化を図る、という趣旨で行なわれました。想定は、紀伊水道でM8.0の地震が発生、神戸東部、阪神地域で建物が倒壊した他、阪神高速走行中の観光バス、トラック、乗用車など数台が関係した事故が発生、多数の負傷者が出た、という内容です。

災害発生後、災害医療センター・赤十字病院の合同対策本部が立ち上がり、合同総括本部が現場指揮を行なうという実

葛根湯はこのようなメカニズムで風邪の初期症状を治療します。さらに最近では、リンパ球からのサイトカインをコントロールし、二次感染による肺炎の予防作用のあることも研究されています。



お薬 四方山話 12

『カゼ症候群と葛根湯』

薬剤部 吉井 妙

世界中で最も罹患率の高い疾患はカゼ症候群です。今回は「葛根湯」の効き目に注目してみよう。約2000年前の中国では細菌やウイルスのように目に見えない病原性微生物について「邪(じや)」という物体を想定しました。中国の漢方医所「傷寒論」では、邪が侵入するとおこる発熱悪寒(ぞくぞくとする寒気)の症状に「太陽病」という病名をつけ、この治療の一つに葛根湯を用いました。この時のおこる高熱は邪を殺し、邪を体の外に排除する免疫システムを活性化するためのものです。その熱を逃がさないように神経が働いて鳥肌を立て、悪寒を感じさせます。葛根湯は葛の根、麻黄、生姜、大棗、桂枝など体を温める生薬より構成されています。葛根湯には細菌やウイルスを殺す作用はなく、体を温め発汗を促して体内の老廃物を水分と、一緒に体外に排出する作用があります。葛根湯を服用すると、肝臓や脾臓の初期感染免疫力を高めたり、ウイルス増殖抑制物質(インターフェロン)の誘発を促進させたり、感染によって低下した胃などの血流を改善することが明らかにされています。さらに「傷寒論」では葛根湯の服用後は「温覆せよ」と指示されています。これは温かい布団の中に入り発汗することにより、肝臓や脾臓で処理できなかった細菌やウイルスを汗と共に体の外へ排除するためです。汗は解熱のためのラジエーターの役目もしています。

● さわらの西京づけ ●

エネルギー 168kcal
タンパク質 17.3g
脂質 8.4g

材料

さわら	80g	みりん	2g
みそ	9g	酒	1.5g
赤みそ	1g		

作り方：調味料を合わせた中に、さわらを前日よりつけこんでおく。
天火で焼く。



「さわら」は、漢字で魚に春と書く(鯖)と書くとおり、春が旬で、瀬戸内で4〜5月頃漁獲されます。(鯖は天然物しかありません。)

冬の間外海で暮らしてきたさわらもイカナゴやイワシを追って瀬戸内へ入ってきます。そして、産卵の準備の為に食べますので、産卵前の「さわら」はおいしいです。寒ザワラは時期が違いますが鍋物などに最高です。

栄養学的にみても、ビタミンB2・D、EPA、DHA、カリウムなどが含まれ、特にカリウムは100g中に490mgも含まれており、塩分の気になる方や高血圧の予防にも効果的です。

栄養課 だより

15



基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し、明るく活力のある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見直しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。（セカンドオピニオン）
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

トピックス&ニュース

フィリピン保健医療支援事業の派遣報告

フィリピンに派遣されていた 知野見 優紀子 看護師が、派遣期間満了に伴い、2月5日より当院で勤務しています。知野見さんへ、フィリピンでの出来事について、いろいろ質問してみました。

①《今回の派遣で、最も印象に残った出来事は？》

ある村の小学校で、1年生（6～9歳）を対象に公衆衛生（手洗いやお尻の拭き方、爪を定期的な切る、清潔な衣服を着る：などの衛生教育）に関する授業を行ったこと。その時の真剣な表情で聞いている子供達の素直さが大変印象的だった。そして、そのうちのある生徒が、家に帰ってから母親に手洗いの方法を説明していたということを後から聞いた時に、やりがいと嬉しさを感じた。

また、その授業を行うためにボランティアさんに手伝ってもらいながら、アンケートや紙芝居、絵パネルを苦労しながらも現地の言葉で完成させたこと。

②《今回の派遣で、最も大変だった出来事は？》

現地で自分が何をしたいのかを見つけるまでの過程。自分に対する課題は誰も教えてはくれないので、自分で課題を見つけ、その課題に向けて取り組み、どれだけ自分が現地で学びとてくるかということ。

③《日本とフィリピンで違うなど感じたことは？》

時間の感覚。フィリピンでは、『9時会議スタート』は『10時会議スタート』を意味しており、時間の感覚が緩やかであること。

④《日本とフィリピンで、よく似ているなど感じたことは？》

和の心。

⑤《この経験を生かして、これからどのようにしたいですか？》

自分で見つけた課題に向けて取り組んでいきたい。

⑥《職員に対して一言おねがいします。》

温かい御支援ありがとうございます。



知野見看護師

次のHAT健康セミナーのご案内

第19回

HAT健康セミナー

老後を安心して過ごすために
～介護保険制度と訪問看護～

開催日時：平成20年5月7日（水）
午後4時00分～5時00分

場所：神戸赤十字病院
3階 第2研修室

演者：神戸赤十字居宅介護支援事業所
神戸赤十字訪問看護ステーション
山崎 京子

※下記まで電話またはFAXでお申し込み下さい。
地域医療連携室（予約センター）
TEL:241-9273 FAX:241-9265

第18回HAT健康セミナー報告

『更年期障害について』 婦人科 佐藤 朝



セミナーの冒頭に守殿院長から紹介がありましたように最近では男性の更年期障害も話題となってきましたが、更年期障害を迎える女性にとつて切実な問題といえるでしょう。そのためかほとんどの女性が参加者でしたが、中には熱心な男性もいらつしました。婦人科佐藤部長より解説していただきましたが、更年期障害で治療が必要な方は10人に1人程度で、数年で症状の改善が期待される一方、他の病気が隠れていることもあるので他の診療科の受診が必要な場合があります。また、更年期障害の治療においては、くすりの効果と副作用について総合的に判断し、必要最小量を使用すること、症状が軽減する数年後には治療を終了することが推奨されました。

